

## 経済学部 佐藤温真

今回私は、水田三喜男記念奨学生としてハンガリーの短期海外研修に参加し、楽しい思い出を作りつつ、視野の広がり、英語の重要性の2つの大きな学びを得ました。

最初に、世界は想像以上に広いです。百聞は一見に如かずといいますが、私自身知識として世界が広いことなど理解していたつもりでしたが、今回の海外研修を通して多くの言語や異文化に直接接触れたことで、改めて知識としてではなく体感で世界の広さを知ることができました。

ハンガリーではマナーや食文化など日本との違いを多く体験しました。

最初に驚いたことは、ハンガリーでは先輩後輩などの上下関係があまりはっきりしていないことです。日本では上下関係の意識が強く、1歳でも年上の場合砕けた話し方などせず相手を敬いながら話します。しかし、ハンガリーでは明らかな年上でない限り、皆砕けた話し方で会話をします。それに加え日本では沈黙を気にしませんが、ハンガリーの人たちは、沈黙にストレスを感じるため基本的に何かずっと話しておりコミュニケーション能力がとても高いです。と言う訳で、コミュニケーション能力が高く、上下関係なく仲がいいのでとても人脈が広いです。私も2週間程度しかハンガリーにいませんでしたが、多くの友達を作ることができました。

食文化では、パスタやイモ類が中心でした。ハンガリーの食事はとてもおいしかったです。基本的に油を多く使った料理が多かったです。日本食とは違うおいしさがある料理ばかりでした。個人的には肉料理がとても多く嬉しかったです。

言語の面ではとても良い刺激になりました。私の中での英語のモチベーションがとても高まりました。普段の会話や研究資料の制作の際に英語で会話をしていました。お互いに母国語でない英語を使用した会話でした。しかし、ハンガリーの生徒は皆、英語が完璧でほとんどの人がトリリンガル以上の生徒でした。私自身英語があまり得意ではありませんでしたので、翻訳アプリや身振り手振りを使って工夫してコミュニケーションをとっていました。実際に英語を使うことでより英語の重要性を認識することができました。

他にも、ハンガリーではゴミの分別などエコに関する活動が積極的に行われていました。ゴミ袋も国全体で統一されており色で識別ができるようになっていました。日本でもゴミ袋の色分けがなされていますが地域ごとに違うため国内で統一されているハンガリーには驚きました。その他にも幼稚園に訪問した際に園児たちがゴミの分別を練習する様子を見せてもらいました。園児たちが、慣れた手つきでゴミを分別していく様子を見て、幼少期の私はゴミの分別などわからなかったのが教育の高さに驚かされました。

2週間と短い間ではありましたが、人生の転換点となるような体験を多くしました。海外への憧れもより大きくなりました。海外研修に迷っている人がいたら、私は研修にチャレンジすることを強く勧めたいです。

